

ラクロス試合における写真撮影時の ヒヤリハット事例集



【目次】

- これが、「危ないッ！」
- シュートボールが飛んでくる！
- 選手が突っ込んでくる！ グラウンドボール篇
- 選手が突っ込んでくる！ クリア&ライド篇
- 審判員にぶつかる！
- 急なボールが来ても避けられない！
- この後、どうなる？ 想定事例集 選手篇
- この後、どうなる？ 想定事例集 審判員&カメラマン篇
- スポーツカメラマンの事故・問題行為の事例

内容現在 2017年9月8日

日本ラクロス協会 広報部

ラクロス試合における写真撮影時のヒヤリハット事例集

日本ラクロス協会広報部本部／2017年9月8日内容現在

ラクロスは、「地上最速の格闘球技」と称されるように、スピードと、激しさと、華麗なプレーが魅力です。その競技特性ゆえ、シュートの流れ弾は勿論、選手や審判が、ライン際やラインの外側まで飛び出すシーンも多々あります。ここに纏めたのは、ラクロス撮影経験の多い先輩カメラマンが、「危ないっ！」と感じたヒヤリハットの事例集です。選手や審判員の動き、ボール・試合の流れを把握し、カメラマンの皆さんは勿論、選手・審判員に怪我をさせないよう、安全に撮影を行ってください。

これが、「危ないっ！」



1 / 8

ラクロス試合における写真撮影時のヒヤリハット事例集

日本ラクロス協会広報部本部／2017年9月8日内容現在

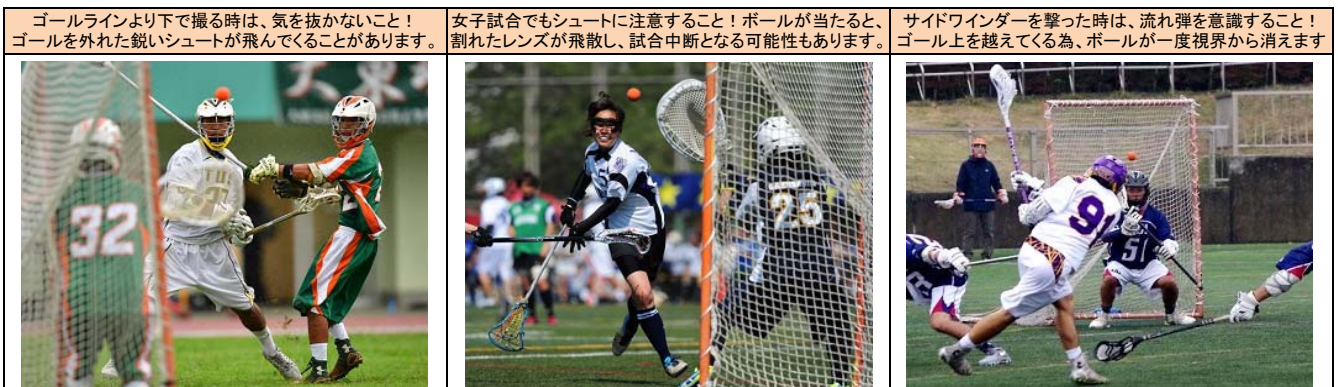
ラクロスは、「地上最速の格闘球技」と称されるように、スピードと、激しさと、華麗なプレーが魅力です。その競技特性ゆえ、シュートの流れ弾は勿論、選手や審判が、ライン際やラインの外側まで飛び出すシーンも多々あります。ここに纏めたのは、ラクロス撮影経験の多い先輩カメラマンが、「危ないっ！」と感じたヒヤリハットの事例集です。選手や審判員の動き、ボール・試合の流れを把握し、カメラマンの皆さんは勿論、選手・審判員に怪我をさせないよう、安全に撮影を行ってください。

【1】 これが、「危ないっ！」 / シュートボールが飛んでくる！

ゴールライン～エンドラインの間は、シュートシーンを撮ろうとするとカメラマンが陣取ることの多いポジションです。しかし、ここには危険もあります。それは、「**望遠レンズで覗いている時に、シュートボールが外れて自分の方に飛んでくる**」瞬間です。

大きな望遠レンズほどボールがこちらに向かってくるのが瞬時に分かり、「危ないっ！」と感じるでしょう。しかし、慌ててカメラから目を外して直接ボールを見ようとした時に、ボールがどこにあるのかを瞬時に確認することはとても難しいものです。特に、シュートの速い男子競技では、その一瞬の見失いが、とても危険な状況に繋がります。

ラクロスの競技では、選手は一振りですぐ鋭いシュートを撃ってきます。ゴールライン～エンドラインの間で撮影する時は、「**常に、シュートが放たれることを意識し、選手のプレーに集中すること**」、そして、シュートが放たれたら、「**落ち着いて、その軌道に自分が位置していないかを判断し、ボールを避けるように適切に身体を動かすこと**」が大切です。（なお、撮影場所の周辺に壁がある場合は、ボールが勢いよく跳ね返ってくることもあります）



2 / 8

ラクロス試合における写真撮影時のヒヤリハット事例集

日本ラクロス協会広報部本部／2017年9月8日内容現在

ラクロスは、「地上最速の格闘球技」と称されるように、スピードと、激しさと、華麗なプレーが魅力です。その競技特性ゆえ、シュートの流れ弾は勿論、選手や審判が、ライン際やラインの外側まで飛び出すシーンも多々あります。ここに纏めたのは、ラクロス撮影経験の多い先輩カメラマンが、「危ないっ！」と感じたヒヤリハットの事例集です。選手や審判員の動き、ボール・試合の流れを把握し、カメラマンの皆さんは勿論、選手・審判員に怪我をさせないよう、安全に撮影を行ってください。

【2】-① これが、「危ないっ！」／選手が突っ込んでくる！グラウンドボール篇

「撮影している付近のサイドライン近くでボールが落ち、グラウンドボール争いになった」時には、次の展開に注意しましょう。「弾かれたボールが外に飛んできた」り、「もつれあった選手たちが、サイドラインの外側に飛び出してしまう(押し出される)」こともあるからです。

選手たちは、基本的に「場外に出よう」として動いている訳ではありません。そのため、サイドラインの近くでボール争いをしているだけの場合、「危ないっ！」と感じることはあまり無いかもしれません。しかし、守備側の激しいチェックや、力強いボディチェックが行われた時は、その次の瞬間に、選手が外に吹っ飛ばされてくることも多々あります。

サイドライン沿いで、グラウンドボール争いが発生した時は、「**選手やボールの動きを注視**」し、「**撮影者の方にボール(もしくは選手自身)が飛び出してくる可能性**」を意識すること。そして、選手やボールが、撮影者の方へ向かう動きを見せた時は、「**すぐに身体を動かせる(よける)準備しておく**」ことが大切です。また、予想外のシチュエーションで選手・ボールが来ることもあります。「**咄嗟の時にすぐ逃げられるような体勢でいること**」を常に意識してください。

① サイドライン近くでグラウンドボールが発生。「迫力あるグラウンドボール争いを撮ろう」	② ボールが弾かれて、こっちに転がってきた。「ボール・選手・審判が、突っ込んでくるっ！」	③ 選手たちは、もつれながら場外に吹っ飛ぶ。「サイドライン際になったら、ぶつかっていた…」
		

3 / 8

ラクロス試合における写真撮影時のヒヤリハット事例集

日本ラクロス協会広報部本部／2017年9月8日内容現在

ラクロスは、「地上最速の格闘球技」と称されるように、スピードと、激しさと、華麗なプレーが魅力です。その競技特性ゆえ、シュートの流れ弾は勿論、選手や審判が、ライン際やラインの外側まで飛び出すシーンも多々あります。ここに纏めたのは、ラクロス撮影経験の多い先輩カメラマンが、「危ないっ！」と感じたヒヤリハットの事例集です。選手や審判員の動き、ボール・試合の流れを把握し、カメラマンの皆さんは勿論、選手・審判員に怪我をさせないよう、安全に撮影を行ってください。

【2】-② これが、「危ないっ！」／選手が突っ込んでくる！クリア&ライド篇

「**守備側がボールを奪い、クリアを始めた**」時は、速攻(ブレイク)・ゆっくりした展開(セット)のどちらであれ、どのエリアでクリアしようとしているか見極めましょう。サッカー・ラグビー・アメフトと同様に、「サイドライン際を駆け上がる」ことは、ラクロスにおいても、クリアで良く見られるパターンです。そして、クリアを防ごうとする選手(ライド)の激しいプレッシャーとの、「サイドライン際の攻防」も、ラクロスで良く見られるシーンです。

ボールをクロスに入れて運ぶラクロスは、選手たちがトップスピードで動くため、クリア&ライドの場面でも、高速で動くことになります。そのため、サイドライン際の攻防の後は、「**トップスピードの勢いに乗ったまま、場外に飛び出す**」ことも多々あります。

まだ遠くの方でクリア&ライドの攻防をしていたとしても、それがサイドライン際の攻防になった時は、「**クリアする選手と、ライドする選手の動きを注視**」し、「**押し出された選手やボールが、その勢いのまま撮影者の方に向かってくる可能性**」を意識すること。そして、選手やボールが撮影者の方に向かってきても衝突しないよう、「**プレーの位置に関係なく、サイドラインからは常に離れておく**」ことが大切です。

① クリア側がサイドライン際を駆け上がる。「まだ、遠くの方でのプレーだな…」	② クリアを止めようと、激しいプッシュをする。「これはクリア側が抜きそうかな？」	③ 抜いたと思った瞬間、その勢いそのまま場外へ。「自分の所まで突っ込んでくるっ！」
		

4 / 8

ラクロス試合における写真撮影時のヒヤリハット事例集

日本ラクロス協会広報部本部／2017年9月8日内容現在

ラクロスは、「地上最速の格闘球技」と称されるように、スピードと、激しさと、華麗なプレーが魅力です。その競技特性ゆえ、シュートの流れ弾は勿論、選手や審判が、ライン際やラインの外側まで飛び出すシーンも多々あります。ここに纏めたのは、ラクロス撮影経験の多い先輩カメラマンが、「危ないっ！」と感じたヒヤリハットの事例集です。選手や審判員の動き、ボール・試合の流れを把握し、カメラマンの皆さんは勿論、選手・審判員に怪我をさせないよう、安全に撮影を行ってください。

【3】これが、「危ないっ！」／ 審判にぶつかる！

ラクロスの審判員の動きの特徴の一つには、「フィールド内を走っていた審判員が、状況に応じて、サイドラインの外を走る」ことが挙げられます。

小さなボールを奪い合い、ゴールを囲む360度でプレー可能なラクロスは、フィールド内に3～4人の審判員が立ち、ボールを囲むようにしてファールを見極めます。そして、審判員たちは、高速で動く選手やボールの動きに視線を集中し、フィールド外の状況を見ながら動くことはありません。サイドライン近くで活動するカメラマンは、これらラクロスの審判員ならではの特徴を把握し、「審判員との衝突が起こらないように努める」必要があります。

「クリア等でボールがサイドライン側に展開された時」などは、審判員はボールの方を見たまま、「バックステップ等でラインの外に出る」ことがよくあります。「サイドライン際の攻防があった直後」や、「リスタートの直後」は、審判員は「サイドラインの外側を駆け上がる」ことがよくあります。そして、審判員は、「前を見て走るのではなく、ボールを見ながら走る」ため、「ライン際に近づき過ぎたカメラマンの存在に気付かない」と思って下さい。

サイドラインの外側を走る審判員との衝突を防ぐ方法はただ一つ。「カメラマンがサイドラインに近づき過ぎないこと」、「最低でも2mは離れること」です。

審判員は「前を見ないでライン外に向けて走る」ことがある	審判員は「サイドラインの外側を駆け上がる」ことがある	サイドラインの外に向かってくる審判員と衝突しないようにカメラマンは対応すること(下の写真は危険な事例)
		

5 / 8

ラクロス試合における写真撮影時のヒヤリハット事例集

日本ラクロス協会広報部本部／2017年9月8日内容現在

ラクロスは、「地上最速の格闘球技」と称されるように、スピードと、激しさと、華麗なプレーが魅力です。その競技特性ゆえ、シュートの流れ弾は勿論、選手や審判が、ライン際やラインの外側まで飛び出すシーンも多々あります。ここに纏めたのは、ラクロス撮影経験の多い先輩カメラマンが、「危ないっ！」と感じたヒヤリハットの事例集です。選手や審判員の動き、ボール・試合の流れを把握し、カメラマンの皆さんは勿論、選手・審判員に怪我をさせないよう、安全に撮影を行ってください。

【4】これが、「危ないっ！」／ 急なボールが来ても避けられない！

★2017年より、「お尻を地面につける」撮影姿勢は禁止となりました★
 (「地面にお尻をつけている」と、危険な状態に気づいても、すぐに動けないため)



★ラインから最低2mは離れる★ (ライン際は審判・選手の動きに巻き込まれる)
 ★スタンドの無い観戦エリア側サイドラインではしゃがんで撮影★ (観戦の妨げ)



★フィールドでの撮影では三脚は使用しない★
 (場外に飛び出した選手が三脚に突っ込むと、選手が怪我をするため)



★最も正しい撮影スタイル★
 ①ラインから2m以上離れる ②常にボールに集中 ③携帯椅子使用(施設による)



6 / 8

ラクロス試合における写真撮影時のヒヤリハット事例集

日本ラクロス協会広報部本部／2017年9月8日内容現在

ラクロスは、「地上最速の格闘球技」と称されるように、スピードと、激しさと、華麗なプレーが魅力です。

その競技特性ゆえ、シュートの流れ弾は勿論、選手や審判が、ライン際やラインの外側まで飛び出すシーンも多々あります。

ここに纏めたのは、ラクロス撮影経験の多い先輩カメラマンが、「危ないっ！」と感じたヒヤリハットの事例集です。

選手や審判員の動き、ボール・試合の流れを把握し、カメラマンの皆さんは勿論、選手・審判員に怪我をさせないよう、安全に撮影を行ってください。

【5】-① この後、どうなる？ / ヒヤリハット想定事例集 選手篇

問1) シュートを撃った！ この後、どんな危険が起こる？



問2) チェイス争いになった！ この後、どんな危険が起こる？



問3) ライン際でボール争い！ この後、どんな危険が起こる？



問4) ボールを拾ってクリアに！ この後、どんな危険が起こる？



7 / 8

ラクロス試合における写真撮影時のヒヤリハット事例集

日本ラクロス協会広報部本部／2017年9月8日内容現在

ラクロスは、「地上最速の格闘球技」と称されるように、スピードと、激しさと、華麗なプレーが魅力です。

その競技特性ゆえ、シュートの流れ弾は勿論、選手や審判が、ライン際やラインの外側まで飛び出すシーンも多々あります。

ここに纏めたのは、ラクロス撮影経験の多い先輩カメラマンが、「危ないっ！」と感じたヒヤリハットの事例集です。

選手や審判員の動き、ボール・試合の流れを把握し、カメラマンの皆さんは勿論、選手・審判員に怪我をさせないよう、安全に撮影を行ってください。

【5】-② この後、どうなる？ / ヒヤリハット想定事例集 審判&カメラマン篇

問5) クリアになった！ この後、この審判員はどう動く？



問6) 遠くでグラウンドボール争い！ この後、審判員はどう動く？



問7) ライン外1mで、座って撮影するカメラマンとしゃがんで撮影するカメラマンが並ぶ。どうすればよい？



問8) ラインにくっついて撮影しているカメラマンがいる。本来、どの場所で撮影するべきか？



以上

8 / 8

スポーツカメラマンの事故・問題行為の事例

他の競技で発生したスポーツカメラマンによる事故や問題行為を以下に記します。

フィールドの間近で撮影するカメラマンは、ボール等の直撃により「自身が怪我をする、カメラ等が破損する」に留まらず、悪意はなくとも、「選手・審判員に怪我を負わせてしまう」事態や「試合・プレーの妨害をしてしまう」事態の発生と、紙一重のエリアで活動しています。

他のスポーツで起きた事例は、ラクロスでも起こりうる事例であることを意識し、事故・問題行為が発生しないように心掛け、良いラクロスの撮影活動を行っていただきます。

① カメラマンが、場外に飛び出た選手と衝突し、怪我を負った事例

▼サッカー ブンデスリーガー・第25節（2014年3月15日）

- ・前半25分過ぎ、ピッチ外で選手と衝突したカメラマンが脳震盪の疑いで病院搬送。
- ・ホッペンハイムのDFが、サイドライン際で相手FWとボールを競り合った際、勢い余ってピッチ外に飛び出すと、ピッチサイドにいたカメラマン・ラムザワー氏に激しく衝突。
- ・一時的に意識を失い、その場で応急処置を施された後、病院へと搬送された。

② カメラマンが、場外に出た選手に怪我を負わせてしまった事例

▼バスケットボール NBAファイナル・第4戦（2015年6月11日）

- ・第2Qで、キャバリアーズのレブロン・ジェームズがプレー中に頭部を負傷。
- ・相手選手からファールを受けた際、バランスを崩し、コートサイドのカメラマンと激突。
- ・頭部の軽い怪我で済み、縫合する必要もなく、すぐに試合へ復帰したが、大怪我となる可能性もあった。

③ カメラマンが、選手のプレーを妨害してしまった事例

▼野球 日本プロ野球・ソフトバンク 対 西武（2016年7月22日）

- ・7回に、ファールボールからカメラを守ろうとした撮影助手と内川選手が交錯し、落球。
- ・カメラマン席への飛球に、内川選手は捕球を試みたが、カメラマンの助手がカメラを守ろうとボードで打球を弾き、内川選手の捕球行為を妨害。
- ・球団は、「悪意はなくとも、選手が近づいてきたら避けてほしい」と口頭で注意。

④ カメラマンが、禁止エリアで撮影し、事故が起きた事例

▼陸上競技 高校総体・男子円盤投げ予選（2013年8月3日）

- ・競技撮影中のカメラマンの頭部に、約40m離れた地点から投げられた円盤が直撃。
- ・頭頂部から流血し、数針を縫う怪我。すぐに救急車で病院に搬送され、命に別状無し。
- ・取材禁止エリアで撮影しており、大会関係者から何度も注意を促されたが、「自分は慣れている」と話し、指示に従わなかった。競技は一時中断後、再開した。

⑤ カメラマンが、競技終了後の場面で、事故を起こした事例

▼アルペンスキー ワールドカップ女子スーパー大回転・第3戦（2015年1月19日）

- ・試合後の表彰式で、会場にいたタイガー・ウッツの口元にカメラが当たり、前歯を失う。
- ・混雑するエリアで、肩にカメラを抱え、膝をついてしゃがんでいたカメラマンが、立ち上がり振り返った時に、肩にかけていたカメラをウッツの口元に直撃させてしまった。
- ・歯根は運よく無事で、ウッツはすぐに帰国し、翌朝、歯の再建治療を受けた。